

平成23年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技

兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会

最終日:平成23年5月29日(日)

会場:岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム

男子の部

<審判>

5位決定戦 中津川工 97 $\left[\begin{array}{l} 31 - 19 \\ 19 - 13 \\ 20 - 12 \\ 27 - 16 \end{array} \right]$ 60 恵那 菅野浩・佐伯和哉

決勝リーグ 美濃加茂 79 $\left[\begin{array}{l} 20 - 15 \\ 21 - 11 \\ 16 - 12 \\ 22 - 13 \end{array} \right]$ 51 岐阜総合 棚橋英一・野々村日希
(2勝) (2敗)

互いにハーフコートマンツーマンでスタート。美濃加茂は松井のジャンプシュートや赤土のゴール下シュートで得点を重ねる。岐阜総合は菅野の3点シュート、山川のジャンプシュートで得点していく。第1ピリオドは、美濃加茂が20-15とリードを奪う。

第2ピリオドに入っても美濃加茂は松井、田口のジャンプシュート、赤土のインサイドでリードを保つ。美濃加茂は赤土の前半だけで22点をあげる活躍で41-26とリードして折り返す。岐阜総合も菅野の3点シュート、西尾のジャンプシュートで一時は同点に追いつく粘りを見せる。

後半に入ると、美濃加茂は2-1-2のゾーンディフェンスに切り替え、松井のジャンプシュート、范のインサイドで着実に得点をあげていく。岐阜総合もディフェンスを3-2のゾーンディフェンスに替え、菅野、西尾が思い切りのよいシュートを決め追い上げを図るが、相手のゾーンディフェンスを攻めきれない。

第4ピリオド、美濃加茂はベンチメンバーに交代するが、激しいマンツーマンディフェンスから相手のミスを誘い、黒木のジャンプシュートや平佐田の速攻などで得点を伸ばす。最後までゲームをしっかりとコントロールし、主導権を渡さなかった美濃加茂が79-51で勝ち決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合も粘り強いディフェンスやリバウンドで対抗したが、思うようにシュートが決まらなかった。(吉福司)

決勝リーグ 岐阜農林 96 $\left[\begin{array}{l} 29 - 26 \\ 18 - 15 \\ 31 - 13 \\ 18 - 17 \end{array} \right]$ 71 富田 角平和優・小森邦弘
(2勝) (2敗)

ゲーム開始から両チームともトランジションの速い展開となる。岐阜農林は相手のインサイドをダブルチームで封じ込め、吉田、早崎、渡邊の速攻やドライブで得点をあげていく。対する富田も山田を起点にして、新井、池上のシュートが決まり、一進一退の攻防が続く。第1ピリオドは岐阜農林が29-26とリードする。

第2ピリオド、岐阜農林は林、小島の3点シュート、早崎のドライブ、田中のインサイドと多彩な攻撃を見せリードを保つ。富田は途中からゾーンディフェンスに切り替え、山田の連続3点シュートや池上のミドルシュートで追い上げる。前半を終わり、岐阜農林が47-41とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜農林は小島の3連続を含む4本の3点シュートと水口の2本の3点シュートが決まり、一気に点差をつける。富田もディフェンスをマンツーマンに戻すなど対抗するが、シュートが思うように決まらない。

第4ピリオドに入っても岐阜農林は攻撃の手を緩めず、早崎が連続10得点を上げるなどし、最後は96-71の大差で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜農林は早崎の28得点をはじめ、スタートの5人がいずれも2桁得点をあげる高い攻撃力をみせた。富田も山田、池上を中心に懸命に追い上げを図ったが、相手の速いディフェンスの前に攻めきれなかった。(林紗規子)

決勝リーグ 美濃加茂 87 $\left[\begin{array}{l} 28 - 26 \\ 25 - 21 \\ 21 - 26 \\ 13 - 13 \end{array} \right]$ 86 岐阜農林 松野瑞穂・名越龍男
(3勝) (2勝1敗)

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。美濃加茂は 赤土、 范のインサイドを中心に攻め、得点を重ねる。対する岐阜農林は、 吉田がジャンプシュート、 田中が1対1からのドライブを決め、互角の展開となる。第1ピリオドは美濃加茂が28-26とリードする。

第2ピリオドに入ると、美濃加茂は 横山、 打江が3連続で3点シュートを決め、リードを広げる。その後岐阜農林も 吉田、 早崎がシュートを決め追いかける。前半を終わって美濃加茂が33-27とリードして折り返す。

第3ピリオドに入っても美濃加茂は 打江の3点シュート、 范、 赤土のインサイドとバランスよく攻め、主導権を渡さない。しかし、岐阜農林は速い展開から 田中、 水口のドライブ、 吉田のジャンプシュートが次々に決まり、1点差まで追いつける。

第4ピリオドは互いのシュートが決まって息を飲む試合展開となる。岐阜農林は 林の3点シュートが2本決まって、残り3分岐阜農林が6点のリードを奪う。しかし、そこから美濃加茂は 范、 赤土がシュートを決め、1点差まで詰め寄る。さらに美濃加茂は残り6秒、 松井がドライブをしかけてファウルを受け、フリースローを落ち着いて2本とも決め、その後を守りきって接戦をものにし、3回目の県総体優勝を飾った。岐阜農林も高さでは劣りながら、スピードあふれる積極的なオフェンスで一時はリードを奪うも、終盤の勝負所で3分間ノーゴールに終わり、惜しくも勝ちを逃した。(吉福司)

決勝リーグ	岐阜総合	104	$\begin{bmatrix} 28 & - & 22 \\ 25 & - & 21 \\ 20 & - & 16 \\ 31 & - & 27 \end{bmatrix}$	86	富田	相宮俊郎・古田 怜
	(1勝2敗)				(3敗)	

東海総体出場をかけた決勝リーグ最終戦。岐阜総合は 菅野の3点シュート、 山川のドライブ、 大野のジャンプシュートなどで着実に得点を上げる。対する富田は 安藤のゴール下シュート、 児島の3点シュートで追いかける。第1ピリオドは岐阜総合が28-22とリードする。

第2ピリオドに入って、岐阜総合は 菅野のドライブ、 大野のジャンプシュート、 光石の3点シュートと攻撃の手を緩めない。富田も 加藤にボールを集め、食い下がるものの、相手のディフェンスを崩せず、点差が開き始める。前半を終わって岐阜総合が53-43とリードして折り返す。

第3ピリオドに入っても岐阜総合は 山川、 光石のリードで試合を優位に進める。富田も 池上の1対1、 安藤のゴール下シュートで追いつけるものの、点差はなかなか縮まらない。

第4ピリオド、岐阜総合は 光石が冷静なゲームコントロールで次々に得点を上げ、最後までファウルゲームで得たフリースローを確実に決め、最後は岐阜総合が104-86で勝利し、東海総体への出場権を得た。富田も最後まであきらめず、 山田、 池上、 石田が次々にシュートを決めるものの、相手の攻撃を守りきれず、点差を詰められなかった。(鈴木雅雄)

女子の部

<審判>

5位決定戦	土岐商	78	$\begin{bmatrix} 11 & - & 14 \\ 26 & - & 12 \\ 24 & - & 21 \\ 17 & - & 22 \end{bmatrix}$	69	岐阜農林	加藤 文・三宅浩平
決勝リーグ	岐阜女子	87	$\begin{bmatrix} 27 & - & 8 \\ 22 & - & 9 \\ 20 & - & 15 \\ 18 & - & 12 \end{bmatrix}$	44	岐阜総合	伴 幸二・菅野恵美子
	(2勝)				(2敗)	

岐阜女子はオールコートマンツーマン、岐阜総合はハーフコートマンツーマンでゲームをスタートする。岐阜女子は激しいディフェンスからボールを奪い 野原、 森沢らが速攻で次々と得点していく。岐阜総合は反撃の糸口が見つけられず、第1ピリオドは27-8と岐阜女子がリードする。

第2ピリオド岐阜女子はさらに厳しいディフェンスで相手のミスを誘い、 野原、 アイダらがゴール下シュートで着実に加点していく。岐阜総合は 辻の3点シュート、 小西のレイアップシュートなどで追いつける。前半を終えて、岐阜女子が49-17と大きくリードする。

第3ピリオド、岐阜女子は 水野のジャンプシュート、 ヤシンのゴール下シュートなどで加点していく。岐阜総合は 鈴木が3点シュートなどで追いつけるが、点差は縮まらない。

第4ピリオドに入っても岐阜女子は攻撃の手を緩めず、 逢返、 坂田の速攻、 ヤシン、 小石のゴール下シュートなど、次々と得点をあげる。最後は岐阜女子が87-44の大差で決勝リーグ2勝目を上げた。岐阜総合は最後まで粘り強く戦い、 鈴木が5本の3点シュートを決め、 小西が鋭いドライブを見せたが、終始岐阜女子の激しいディフェンスに苦しめられた。(伊藤潤)

決勝リーグ	長良 (2勝)	84	$\begin{bmatrix} 22 & - & 13 \\ 22 & - & 8 \\ 23 & - & 15 \\ 17 & - & 22 \end{bmatrix}$	58	高山西 (2敗)	大豆村斉・野々村日希
-------	------------	----	---	----	-------------	------------

両チームともハーフコートマンツーマンでゲームをスタート。長良は相手の長身センターをチームディフェンスで守り切り、攻めては服部のミドルシュート、大野の3点シュートで流れを掴み、確実にリードを奪う。高山西はインサイドの攻撃を封じられ苦しい出だしになる。

第2ピリオドに入っても長良はディフェンスをよく頑張り、大野がバスケットカウントシュートや3点シュートと大車輪の活躍をして、一気に点差を広げ、前半で44-21と大きくリードを奪う。高山西は平林、日下部が3点シュートを決めるが、単発的な攻撃に終わる。

第3ピリオド、長良は、大野、服部が確率の高いシュートでさらにリードを広げる。高山西もようやくインサイドアウトの攻撃が決まり始め、石田、日下部の3点シュートで反撃するが点差は縮まらない。

第4ピリオド、長良はベンチメンバーを出場させる余裕を見せ、最後は84-58の大差で勝ち、決勝リーグ2勝目を上げた。長良は終始インサイドのディフェンスやディフェンスリバウンドを徹底して頑張り、攻撃面では内外角のバランスのよい攻めで大野が30点、服部が21点を上げる活躍をして、高いチーム力を見せた。高山西もチームで11本の3点シュートを決め、必死の反撃を見せたがインサイドが攻めきれなかった。(野々村浩二)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	102	$\begin{bmatrix} 37 & - & 19 \\ 24 & - & 16 \\ 18 & - & 19 \\ 23 & - & 16 \end{bmatrix}$	70	長良 (2勝1敗)	大江裕之・川島哲生
-------	--------------	-----	--	----	--------------	-----------

岐阜女子はオールコートマンツーマン、長良はハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜女子は力強いディフェンスから速攻に出て、森沢のドライブ、小林のレイアップシュートで得点していく。長良もファウルで得たフリースローを決め、応戦するが、岐阜女子の激しいプレッシャーにシュートを阻まれ得点が伸びない。第1ピリオドは35-19と岐阜女子がリードする。

第2ピリオド、岐阜女子は梶川のミドルシュート、水野のミドルシュート、レイアップシュートなどで確実に加点していく。長良も吉田のドライブ、合わせのプレー、服部のミドルシュート、大野のゴール下ジャンプシュートで追い上げを図るが、思うように点差が縮まらない。前半は61-35と岐阜女子が大きくリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜女子は野原のゴール下ジャンプシュート、梶川の速攻からのレイアップシュートで得点するが、長良も吉田のドライブ、ミドルシュート、中島の3点シュートで対抗し、互角の戦いとなる。岐阜女子が79-54とリードして第3ピリオドを終える。

第4ピリオド、岐阜女子は小林を起点に多彩な攻撃を展開し、小林、梶川のドライブ、野原、水野のリバウンドシュートで得点を重ね、最後は102-70で勝利し、18年連続20回目の優勝で、全国大会への出場を勝ち取った。長良もディフェンスを粘って、最後まで走り抜きスティール、相手のターンオーバーからの速攻や中島の5本の3点シュート、大野のゴール下ジャンプシュートで得点を上げるが、点差を詰めるには至らなかった。(瀬川雄一郎)

決勝リーグ	岐阜総合 (1勝2敗)	54	$\begin{bmatrix} 8 & - & 11 \\ 9 & - & 15 \\ 23 & - & 13 \\ 14 & - & 14 \end{bmatrix}$	53	高山西 (3敗)	小牧秀則・林 義貴
-------	----------------	----	--	----	-------------	-----------

両者共にハーフコートマンツーマンでスタートする。高山西は筒井、張のハイロープレーが決まり、確実に得点を重ねる。岐阜総合は牧田のミドルシュート、羽賀のドライブで点差を縮める。第1ピリオドは高山西が11-8とリードする。

第2ピリオド、高山西は日下部が連続10得点を上げる活躍でチームを引っ張る。岐阜総合は相手の高さを意識してシュートが思うように決まらない。前半を終わって高山西が26-17とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜総合は羽賀がこのピリオドだけで4本の3点シュートを含む、20得点を上げる大活躍を見せ、ディフェンスも全員がよくボールを追ってプレッシャーをかけ続け、ついに逆転に成功。高山西も日下部のシュートで必死に追い上げる。

第4ピリオド、岐阜総合は羽賀の3点シュート、小西のドライブと得点を伸ばせば、高山西は日下部が3点シュート、ミドルシュートと必死に追い上げる。緊迫したゲームが続く中、残り1分を切って岐阜総合が1点リードした場面、互いにミスが続き、点数が動かない。しかし、岐阜総合が最後までディフェンスを粘り抜き、そのまま逃げ切って第3位となり東海大会への出場権を得た。岐阜総合は羽賀が6本の3点シュートを含む24得点を上げる活躍をみせ、越田、小椋も相手の高さ負けずリバウンドに飛びつき、全員で守り抜いた勝利であった。高山西も日下部が5本の3点シュートを含む29得点を上げたが、インサイドを攻めきれなかった。(野々村浩二)